

『オオサンショウウオを泣かせるな!』

= 上流移転は保全ではなく過密戦争である =

05.5.13

自然愛・環境問題研究所 総括研究員 浅野 隆彦

「第 9 回川上ダム オオサンショウウオ調査・保全検討委員会」が、流域で確認されている 353 匹のうち、貯水予定地内の 116 匹(約 32%)を上流へ移転させる事を決めた。

オオサンショウウオについては、その生態の詳細について研究は不足しており、特に幼生の 4 ~ 5 年間は、自然の中での観察例は少なく、明確な存在としてとらえられていない。

各個体の大きさにより、採餌量が異なり「縄張」の広さが各々ある筈である。現在確認数は「洩れ」もあると考えられる。が、凡そ 7 割が現住する上流域へ 3 割強が移住するという事は、自然のうちにそれなりの時間をかけ、それなりの秩序安定が成立しているオオサンショウウオ「上流社会」へマチガイなく「過密戦争」を惹起するものであり、「上流社会」が余裕しゃくしゃくの空間を有している場合でも、いわゆる「縄張争い」などでの犠牲が考えられるところである。

『可能性の最大危険値は、116 匹の死であり、平均危険値は 5 8 匹の死である』と、私は考える。科学的でもないが、上記委員会が決めたこの保全策には明らかに反科学的意図が先行している。撤回すべきである。

追記して言うならば、オオサンショウウオだけの被害のみを論じる訳ではなく、当該河川生態系に大きく影響する事必定の愚策なのではなかろうか。